

Rorschach 判 圖 法 の 研 究

第1報 集團施行に就て

金澤醫科大學精神醫學教室(主任秋元教授)

佐 竹 隆 三

Ryuso Satake

(昭和22年11月4日受附)

Group-test of the Rorschach-inkblot-method.

By *Ryuso Satake*

From the Department of Neuropsychiatry, the Kanazawa
Medical University.

(Director : Prof. Dr. H. Akimoto.)

Hitherto the Rorschach-inkblot-test has been used within the limits of an individual test, the objects of which having been chiefly mentally deranged persons, but now the author is going to propose a group-test for the following purposes;

- 1) Characterological and typological studies of normal persons,
- 2) the grasp of characteristics of mental structure (variation, distribution etc.) of the people in various groups (for example, a factory or a school),
- 3) the exclusion of subjective valuation of the results of this test, which is unavoidable in an individual test, for the possibility of

objective and quantitative valuation.

Those who were tested were 400 normal persons, most of them being the students of the Kanazawa Medical University. Our present purpose naturally necessitated a remarkable change of the conditions of the test given by Rorschach.

The results of this test were always treated statistically. The judgment of the results was given more or less after Rorschach, but the author found some revisions were necessary in many points. About this the author will enter into details in the next report. In this report, the author has given only two conclusions, the possibility of a group-test and a few discovered facts. (Author's abstract)

現在用ひられてゐる精神検査, 或は心理検査 は, 次の2種に大別出来る. 一は, 個々の要素

的機能に關するもの、他は、精神構造全般に關するものである。前者を部分検査、後者を全體検査と呼ぶならば知能検査、性格検査の多くは、第一の種類に屬するものを幾つか選擇して検査し、それらの結果の綜合より目的とする精神構造を測定しようとする方法であり、結局それは部分検査の寄木細工的集積に他ならない。この様なやり方は、一面各検査の意義が比較的明確であるといふ利點はあるが、又他面、各検査間の連繫に乏しく、それらの寄せ集めである斷面的表現(プロフィール)が果して眞に精神構造の或る側面を全體的に指示するものであるかどうか疑問であることが尠くない。これに反して、全體検査では統一ある觀點の下に得られた所見を分析することによつて、精神構造を測定しようとするものである故、第一の方法につきまよふ難點から免れるのであるが、同時に又それは測定の範圍が狭小であることや、分析の基準を決めることの困難であること等の缺點を持つてゐる。然し若しかかる困難を克服し得るやうな全體検査の方法が得られるならば、特に性格、氣質と呼ばれてゐる種類の精神資質の測定はその可能性を一層増進し得るものと思はれる。現在のところ我々はまだこの種の満足すべき方法を持たない。私はこの方向に研究を進めるに先立ち、所謂全體検査としての特徴をよく備へてゐる Rorschach 判圖法を再検討、吟味することを思ひ立つた。

スイス、エリザウ州立精神病院心理研究室に於て、Hermann Rorschach は 1911 年インク汚點の偶然的な形態よりなる「テキスト」を用ひ、精神病者に心理實驗を行ひ、爾來これを 10 年餘に亘つて研究し、その結果を 1921 年にまとめて「精神診斷學」なる單行本として發表した。この無名の一精神病學徒の業績はやがて學界の注目を惹くに至つた。しかしこの實驗は彼が中道に

斃れたのに加へて、實驗及び整理に當つて特別の技術的熟練を要すること等のために、有名である割合に實際にはあまり多くの人によつて試みられなかつた。これらの理由から本法は精神病學的検査法としても現今尙廣くは用ひられてゐない。唯原著者の歿後、その同僚である Emil Oberholzer が中心となり、この方法の指導普及に當つたので、一部では尊重され、殊に米國ではこの検査法が特別の技術として取扱はれて居り、本法に關する専門の研究團體さへ設立されてゐる。しかし從來の研究は、主として精神疾患者を對象とする個人検査の埒内で行はれたために、精神疾患者の所謂診斷法としては種々有意義な成果を擧げてゐるにかかはらず、正常者の精神診斷にどれ程役立つかといふことや、更にこの場合の検査結果の整理方法、及び特にその基準に就いては、知られるところが甚だ少いのである。若しこの方法が、從來行はれて來たやうな個人テストから一步進んで集團的に行へるやうに工夫することが出来るならば、この方法の適用範圍は更に擴大されるであらうことは疑ひない。又、この集團施行が實際可能であれば、個人検査では集め難い多數の資料を比較的短期間に容易に得られるばかりでなく、正常人の性格類型學的研究乃至は種々なる集團(例へば工場、學校)に於ける精神構造の特質(變異、分布等)の把握に資することが出来るし、更に又個人テストに免れ難い主觀的評價の危険を除き、客觀的、數量的觀察を可能とするであらうことを豫想し得る。私はこのやうな意圖の下に本法の條件を集團施行に適する如く改變し、先づこれを本學學生を主とする集團に就いて試みた。

本報告では Rorschach 判圖法の集團施行可能性の吟味に就いての經驗を主として論述する。

1. 検査方法及び検査成績處理法


もともと本法は個人検査として作られたものである

からこれを集團化するためには、原著者の規定條件を

相當に変更せねばならない。先づそれが可能か否かの見通しをつけるため、一群の被検者（昭和18年度入學醫専1年生80名）に豫備テストを試み、この経験に基いて施行方法の細目を定め、本學學生を主とする集團480名を被検者とし、これを數回に分つて集團施行を試みた。被検者の細別は、大學3年生50名、同2年生40名、同1年生50名、附屬醫専4年生50名、同3年生52名、附屬藥専3年生20名、同2年生38名、及び看護婦養成所生徒2年生50名、同1年生50名、總計480名

第 1 圖

Rorschach 氏判圖法検査用紙	
検査日	年月日時
氏名	
男女	歳 年月日生
現住所	
職業	
學歷	
診斷	
検査時狀態	
検査條件	
金澤醫科大學精神醫學教室	

No. 1	解答
	1
	2
	3
	4
	5
	6
	7
	8
	9
	10

施行に先立つて第2圖の如き指示を與へ、尙指示後質問を許し趣旨の徹底を期した。各圖の露出時間を豫備テストの経験により3分（秒時計で正確に計り、且30秒前にその旨を合圖して示した）と定めたので全検査は長くて40分以内に終了する。検査の結果は、統計的に處理したがそのために、全被検者480名より無撰

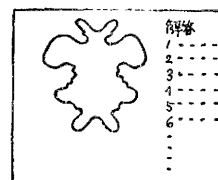
である。

検査の要領は、Rorschach 第一シリーズ圖譜10枚をエビデアスコープで順次映寫し、その判斷を豫め配布した用紙（第1圖）に各自記入せしめるのである。検査場所は學内の小講堂を用ひ1回80名を限度とした。原法と異なる主な點は、圖が擴大され且遠距離にあることと、圖の位置を一定にしたことである。擴大映寫に就ては數人の被検者によつて原著者の規定位置で見る場合と大差なきことが確められた。

第 2 圖

説 示

- これから圖を10枚順々に映寫します。映つた圖をよく見て「それが何であるか」思ひついた通りをいくつでも記入用紙に書いて下さい。制限時間は1題3分間です。答は圖の全體からの判斷でも又はどこか一部分からの判斷でも御勝手です。
- 記入に際して隣の人と相談してはなりません。自分の思つた通りを樂な氣持であります書けばよい。
- 次に答を記入する仕方を説明します。



(イ) 記入用紙は左圖のやうなもので1題1枚づつです。

(ロ) 答が圖の全體を意味する時には

右側の解答欄に答だけを書いて下さい。

(ハ) 若し答が圖の一部分を意味するならば左側の見本圖にその部分の輪廓を記し答の所まで線を引いて下さい。

- 各問題毎に「用意、紙をめくつて、始め」の合圖で記入を始めて「止め」といふ合圖で直ちに筆を置いて下さい（合圖がある迄次の用紙を開かぬこと）。

擇的に400名を取り、これを更にA、B 2群に分ちしかも各群全く同様の構成をなす様に撰んだ上、これを種々なる觀點より集計計算した。

検査成績の處理法は大體 Rorschach になつたが、其の結果は幾多の點で改訂を必要とすることを見出した。この點に就ては續報で詳論することとする。この

方法に特異な點は、凡ての結果を數量的に取扱つたこと、検査時間を一定としたために全應答數が直ちに反

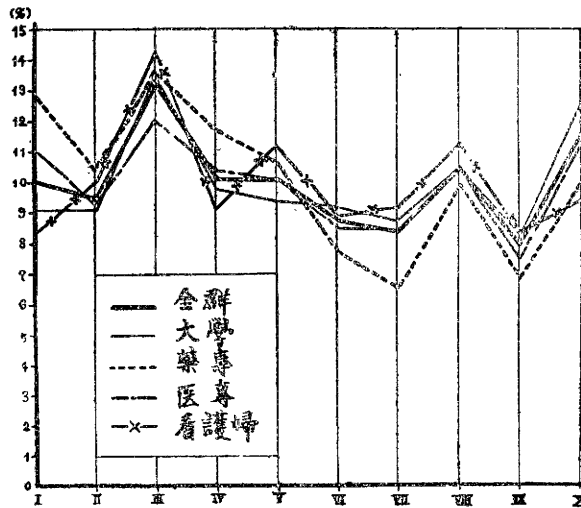
應量となつて表現され、従つて各例の比較が非常に容易であるということである。

2. 検査成績とその判定

先づ、このやうな集團検査でどの位の應答數が得られるかといふことが問題である。被験者全體の應答數合計 8405、一人平均 21.5 であつて、この數は Rorschach が正常人の應答數として擧げてゐる 15~30 の間にある。即ちこの検査法で分析資料と爲し得る丈の應答が得られる

わけである。尙各課題別に見ると、一題平均 2 であるが、それらの間には可成りの動搖がある。各課題の應答數%を種々なる被験者群に就いて比較すると、相互によく一致する。これは各課題の表象湧起度を示すものと考へてよい。(第3圖)

第 3 圖



さて、個々の検査結果の整理に當り最も重要なことは、検査の目標を何處に置くかである。Rorschach の方法はなかば記述的、なかば數量的ともいふべきもので、この點が甚だ明確を缺いてゐるので、我々は結果を専ら數量的に取扱ひ得るやうにするために、整理の目標をさし當つて 8 個に限定した。この目標を指標と呼ぶことにする。これら指標の意義は大部分 Rorschach に従つたが、その數値の算出には異なるところがある。尙個々の指標に對して暫定意義を與へてみたが、これは整理の結果から判断したものもあり、Rorschach の見解に従つたものもある。

その當否は多數の實驗に就いて更に吟味を要するので、さしあたり暫定意義と呼ぶことにした。(第4圖)

この中、異例應答を除く他の指標を目標として統計的に整理した結果、次のやうな所見を得た。

各指標の度數分布折線を作ると第5圖、其の 1 及び其の 2 の如くである。そのグラフは指標によつて可成り相違するが、左右相稱性の有無によりこれを二大別することが出来る。その一は比較的よく左右相稱性を示すものであつて其の 1 に示した應答數、全體應答、良好形態應答、

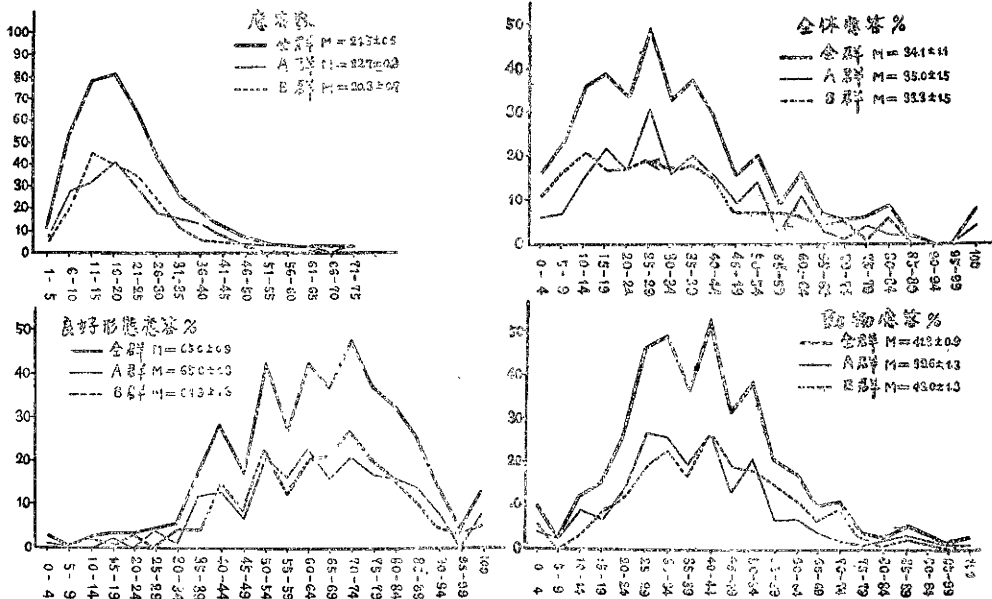
第 4 圖 指標の撰擇と暫定意義

指	標	暫定意義
1. 應 答 數 % (S)		積極性? 思考湧起性?
2. 全 體 應 答 % ($\frac{G}{S} \times 100$)		概活性? 粗大性?
3. 良好形態應答 % ($\frac{F_+}{F_+ + F_-} \times 100$)		精 密 性
4. 色 彩 應 答 % ($\frac{FFb + FbF + Fb}{S} \times 100$)		情緒性(向他性)?
5. 運 動 應 答 % ($\frac{B_+ + B_-}{S} \times 100$)		感覺性(向自性)?
6. 動 物 應 答 % ($\frac{T}{S} \times 100$)		思 考 具 體 性
7. 抽 象 應 答 % ($\frac{Abstr.}{S} \times 100$)		思 考 抽 象 性
8. 異 例 應 答 % ($\frac{Orig.}{S} \times 100$)		思 考 特 異 性

動物應答がこれに屬する。この中でも應答數は最も凹突に乏しく、且その分散度が尠く、モード階級は16~25の所にある。換言すれば應答數は大體一定の範囲内にあるからそれより偏差が大であれば、これに何等かの意義を與へ得ると思ふ。他のものはこれに比べると歪みが相當大である。特に全體應答や良好形態應答では偏差

が相當廣範囲に亘つてゐる。しかし大體動搖の範囲は定つてゐる故、これから基準を求めることは可能である。動物應答はこの中で最も動搖範囲が狭い。尙被験者群を同一構成を有する如くに二分したA, B 2群を比較すると、全體應答を除く他は大體よく一致する。即ち、動搖の範囲は大體に於てコンスタントと言つてよい。(第5圖其の1)

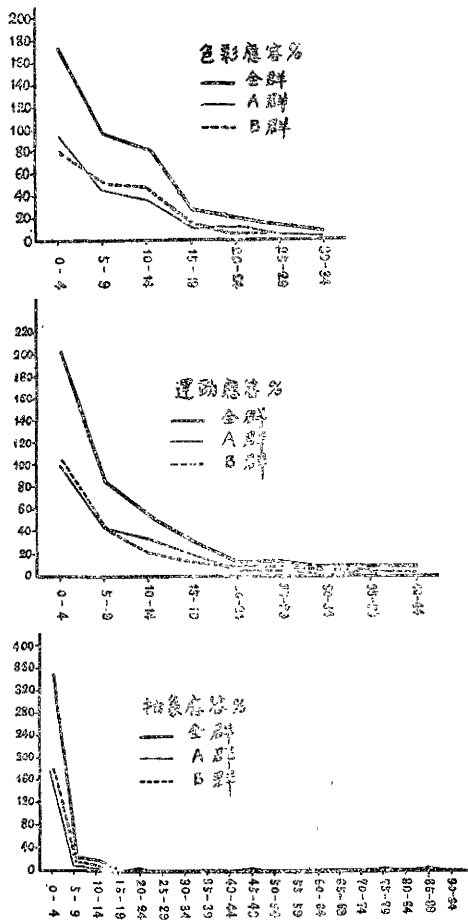
第5圖 其の1 各指標の度數分布其の1



以上と著しく趣きを異にするのは、其の2に

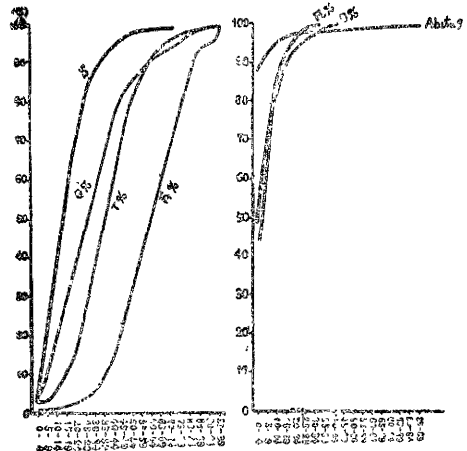
屬する色彩應答、運動應答及び抽象應答の三つの指標である。これらは度数分布が一方的で、變量の最小階級の方に度数が集中して居り、就中抽象應答に於てこの傾向が最も顯著である。實測値を見ると最小階級の中でも零が最大多數を占めてゐる。このことは畢竟、これらの指標に於ては皆無若くはこれに近い少數が正常であるといふことになり、これは百分率を以て示すより、Rorschach の如く實數を以て表した方が適當ではないかと考へられる。この點に關しては次報に於て吟味検討する筈である。尙これらの指標に於ても A、B 2 群の分布折線はよく一致し、これが恒常的な分布であることを思はしめるのに充分である。(第5圖其の2)

第5圖 其の2 各指標の度数分布 其の2



今これら各指標の累加度数曲線を作つてみると(第6圖)、應答數(S)、全體應答%(G%), 動物應答%(T%), 良好形態應答%(F+%)等の第1群に屬する指標は圖の左方に示す如く、比較的好く僅少非對稱曲線を示してゐる。従つてこれらの指標に就いては百分段階基準を求めることが可能である。然るに第2群に屬する色彩應答%(Fb%), 運動應答%(B%)及び抽象應答%(Abstr.%)は前項の分布曲線から豫想される如く異常な曲線形を示す。(第6圖)

第6圖 各指標の累加度数曲線 100 分段階



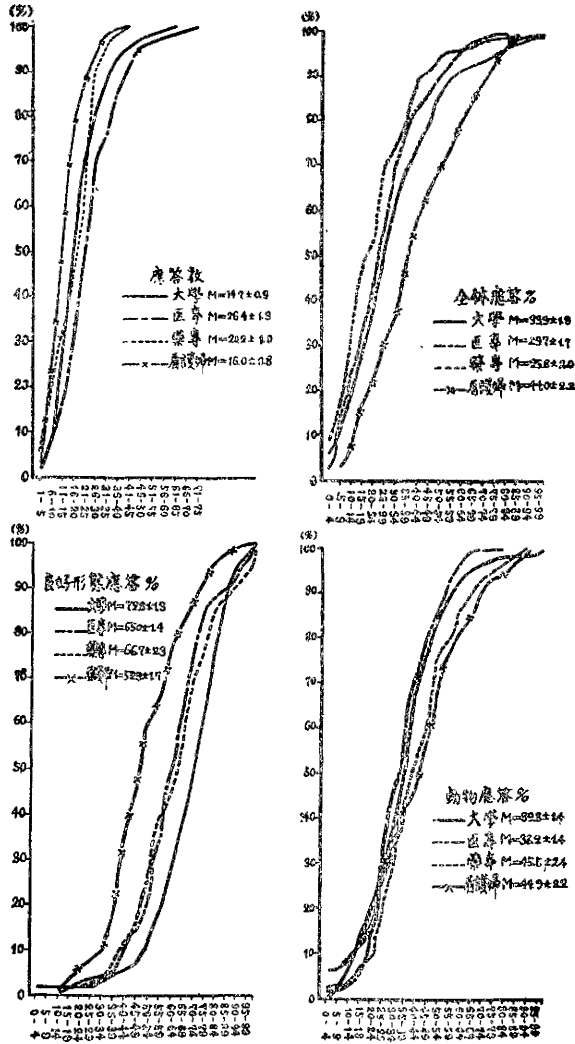
従つて、これらの指標では、このままで基準を設定することは不可能である。しかしこの場合にも50段階を曲線の最下部に移動せしめて、別に段位を設ければ第1群と同列に取扱ひ得る基準を得ることが出来る。前述の如く或ばこれらは強ひて%にせず、實數を以て示してもよいかと思ふ。以上の方法によつて各指標の基準を求めれば、本検査成績はこれをプロフィールとして簡明に表現出来る。現在私が得たのは極めて特殊の集團に限られてゐる故に、その結果を以て一般の基準とすることは出来ないで、ここではプロフィール的表現の可能性を指摘するに止めることとし、プロフィール的表現に關しては次報で論ずる。

尚、基準の設定と關聯して、集團の相違がどの位迄成績に反映するかを二三の指標に就いて

調べて次の結果を得た。(第7圖)

この圖の意味を要約すると、大學、醫專、藥

第7圖 異なる被験者群に於ける累加度數曲線



專のやうな男性學生群と看護婦群（これは16歳から20歳迄の養成所生徒で高等小學卒業程度である）では相當異る所見を示すのであつて、應答數及び良好形態應答は看護婦群に乏しく、全體應答及び動物應答は看護婦群に於て豊富である。動物應答では藥專群が看護婦群に密接してゐる。この結果を先に述べた指標の暫定意義と

對比すると、この比較は凡そ、被験者群の精神構造特質を反映するものと思はれ、従つて又それは個人プロフィールでも成立つてあらうことを豫想せしめる。

今述べたところから應答數と良好形態應答及び全體應答と動物應答とは相互に逆の關係にあることが考へられる。これらのことを吟味する

ためには各指標間の相関を調べて見なければならぬ。もつともこれを統計數學的に扱ふには資料も不十分であり、更に度数曲線の中には極

めて不正規なものが多いので、精確なところは知り得ないが、一應相関係数及び相関比を算出してみると第8圖の如くなる。

第8圖 各指標間の相関

指 標	相 関 係 数 r	相 関 比 r	意 義
應答數と良好形態應答%	+ 0.09	r_{xy} 0.26 r_{yx} 0.37	積極性と精密性
全體應答%と良好形態應答%	- 0.18	r_{xy} 0.27 r_{yx} 0.3	概活性と精密性
色彩應答%と運動應答%	+ 0.04	r_{xy} 0.13 r_{yx} 0.16	情緒性と感覺性
抽象應答%と動物應答%	- 0.02	r_{xy} 0.42 r_{yx} 0.03	思考の具體性と抽象性

この結果から見ると、應答數と良好形態應答に就いては豫想された逆相関は見出されないうえ却つて順相関を示し、全體應答と良好形態應答とは逆の相関を示す。尙、抽象應答と動物應答とが逆相関にあることはその意義によく一致してゐる。少しく意外に感じたのは色彩應答と運動應答との關係である。Rorschach の見解に従へば兩者は相反的であるが、私の所見ではこれに一致しない。これは兩應答の判定が屢々困難であることが多いので、判定者によつてその範圍が一致しないといふこともあらうが、又このものに與へた意義が果して正常であるか否かを検討してみることが必要であることを思は

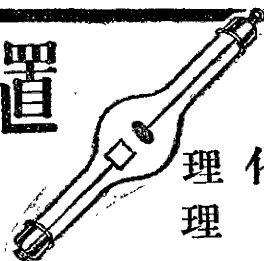
せる。尙、これら指標間の相関はその程度から見て甚だ小であることは注意すべきである。相関係数のもとより、相関比でもその値は微小である。このことは寧ろこれらの指標が夫々或る程度獨立的であることを意味するものと云へよう。しかし先に述べたやうに、かかる種類の資料では、統計數値に餘り重きを置くことは正しくないと考へる。相関に就いては更に具體的に検討すべきであると考へてゐる。

擱筆するに際し、御指導と御校閲を賜つた秋元教授に感謝する。尙成績處理に協力された大塚鯉三君、統計的處理の大半を分擔された吉田清三君に謝意を表す。

文獻：最終報告に一括して擧げる。

レントゲン装置

同附屬品 X線フィルム
超短波・太陽燈・赤外線燈
(販賣・据付・修理)



島津の

理化學器械
理科標本

株式會社島津製作所北陸總代理店

丸文株式會社金澤出張所

金澤市片町大和百貨店四階 電話 5001

本社 東京都中央区日本橋大傳馬町二ノ一丸文ビル 電話茅場町 88, 339, 470, 972
京都支店 京都市中京區木屋町通二條下ル 電話上 2432, 2522
出張所 大 阪 ・ 神 戸 ・ 名 古 屋

